

発表者: **寺尾 智史** 氏

1926年、真陽小学校(神戸市長田区)刊

『方言の調査と矯正方案』を読む

発表者: **山口 隆子** 氏

「ホームステイのメカニズムを観光人類学から

読み解く」ための試論①

日時: 2014年2月13日(木) 17:30 ~ 20:00

場所: **E410(学術交流ルーム)**

〔神戸大学大学院国際文化学研究所〕 (生協食堂前のエレベーターにて4階へお上がり下さい)

#### 【寺尾智史】

〔内容概略〕1926年、神戸市立真陽小学校(長田区)の教員によって刊行された『方言の調査と矯正方案』は、列島各地で発行された同種の印刷物の中でも、最も苛烈に(教員の母語でもあった)地元ことばを排斥し、標準語を“崇拜”する内容を含んでいる。本書を読み解くことによって、母語話者どうしでの母語排斥の場としての公教育の政治性を問いなおして見たいと思います。

〔経歴・業績〕博士(人間・環境学)京都大学。現在、神戸大学大学院異文化研究交流センター(IREC)協力研究員、非常勤講師(「言語と国家」・「言語と権力」等)。専門は社会言語学、教育史。「体罰でわたしたちの口からファラ・チャラを叩き出してくれる先生—ヨーロッパ最辺境のある集落における言語絶滅と体罰『体罰の世界史』石井昌幸・志村真幸(編)、水声社、2014年出版予定。「文化的多様性を担保する新たな領域性(テリトリアリティ)としての流域圏—加古川流域に探る可能性—」『人間・環境学』22:135-148。京都大学大学院人間・環境学研究所、2014年。「社会学者小松堅太郎(1894—1959年)と“民族”—“民族”概念肥大化の潮流の中で『京都精華大学紀要』43:3-23。京都精華大学、2013年。「少数言語として切り取られることは言語多様性保全につながるか—ヨーロッパ最周縁を起点として」『多言語主義再考』砂野幸稔(編)、三元社、2012年。

#### 【山口隆子】

〔内容概略〕今回の発表では、皆さんにとって所与の概念ともいえる「ホームステイ」について、ゴッフマンの『行為と演技』論を基にそのホームステイのメカニズムについての考察を試みたいと思っています。

〔経歴・業績〕博士(学術)神戸大学。現在、神戸大学大学院異文化研究交流センター(IREC)協力研究員、非常勤講師(「観光文化論」・「文化人類学」)。「ホームステイという異文化への旅とその文化の求め方—アメリカで誕生したホームステイ団体の人類学的考察—」『旅の文化研究所研究報告』18:53-66。2009年。「「ホームステイ」誕生の背景と求められた異文化理解—世界で最初のホームステイ組織・EILを事例に—」『神戸文化人類学研究』2:30-69。神戸大学大学院国際文化学研究所文化人類学コース、2008年。「ホームステイにおける異文化のまなざし—金沢の事例から—」『観光のまなざし』の転回越境する観光学』遠藤英樹・堀野正人(編)、pp.147-167、春風社、2004年。

#### ●お問い合わせ

異文化研究交流センター TEL: 078-803-7650

mail:irec@ccs-srv.cla.kobe-u.ac.jp

メディア文化研究センター TEL: 078-803-7494

mail:cmec@ccs.cla.kobe-u.ac.jp